



## ポリオはワクチンによる予防が大切です

ポリオ（急性灰白髄炎）は、感染すると約1000～2000人に1人の割合で手足の“まひ”を起し、後遺症を残します。まひ症状が進行し、呼吸困難により死亡することもあります。

国内では、1980年以降に野生株ポリオウイルスによるまひ患者は発生していませんが、海外から持ち込まれるリスクはゼロではありません。



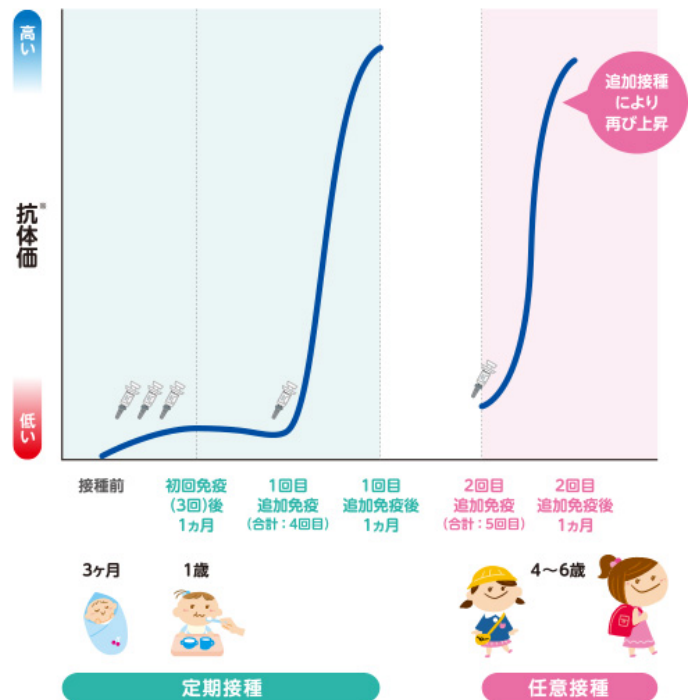
ポリオには有効な治療法がなく、ワクチン接種が唯一の予防法です



### 5回目の接種で、低下した抗体価が再び上昇します

- ・不活化ポリオワクチンは現在4種混合ワクチンに含まれ、定期接種で4回接種しています。
- ・4回目接種から時間が経つと、抗体価（感染を予防する力を数値であらわしたもの）が徐々に低下します。（平成24年11月以前に単独不活化ポリオワクチンを接種している方も同様です）
- ・抗体価をより高く維持するために**小学校入学前（年長児）に5回目の追加接種をおすすめします。**（現在、宮崎市は公費助成がなく、自費となります）
- ・欧米諸国では小学校入学前に追加接種が実施されています。

### ● 不活化ポリオワクチン接種と抗体価の変化（イメージ図）



※抗体価：感染を予防する力を数値で表したもの



### ポリオワクチンの接種パターン

- ①経口生ポリオワクチン2回
- ②経口生ポリオワクチン1回 + 不活化ポリオワクチン3回
- ③不活化ポリオワクチン4回
- ④4種混合ワクチン4回

ポリオワクチン接種パターンが、①の方は5回目接種の必要はありません。しかし、②～④に該当する方はワクチンの抗体価が徐々に下がるため、小学校入学前（年長児）に**自費になりますが追加接種をおすすめします。**

ワクチン接種をご希望の方は、お気軽に窓口にてお問い合わせ下さい。

